

# CABLINE®-CA

Part No. Plug:20633-#\*\*T-0#S

Receptacle:20525-#\*\*E-0##

## Instruction Manual

8	S21243	May 27, 2021	M.Nakamura	T.Masunaga	H.Ikari
7	S21152	April 1, 2021	M.Nakamura	T.Masunaga	H.Ikari
6	S18408	June 29, 2018	M.Nakamura		Y.Shimada
5	S17941	December 28, 2017	H.Aoki	T.Kurachi	Y.Shimada
Rev.	ECN	Date	Prepared by	Checked by	Approved by

弊社製コネクタ CABLINE-CA を安全に御使用頂くことを目的とし、コネクタの挿入・抜去の手順及び注意点を記述致します。

## 【対象コネクタ名称・型番】

### ◆ケーブル側コネクタ

名称：CABLINE-CA Plug Cable Assembly

型番：20633-#\*\*T-0#S

- 1: With Pull bar
- 2: Without Pull bar

### ◆基板側コネクタ

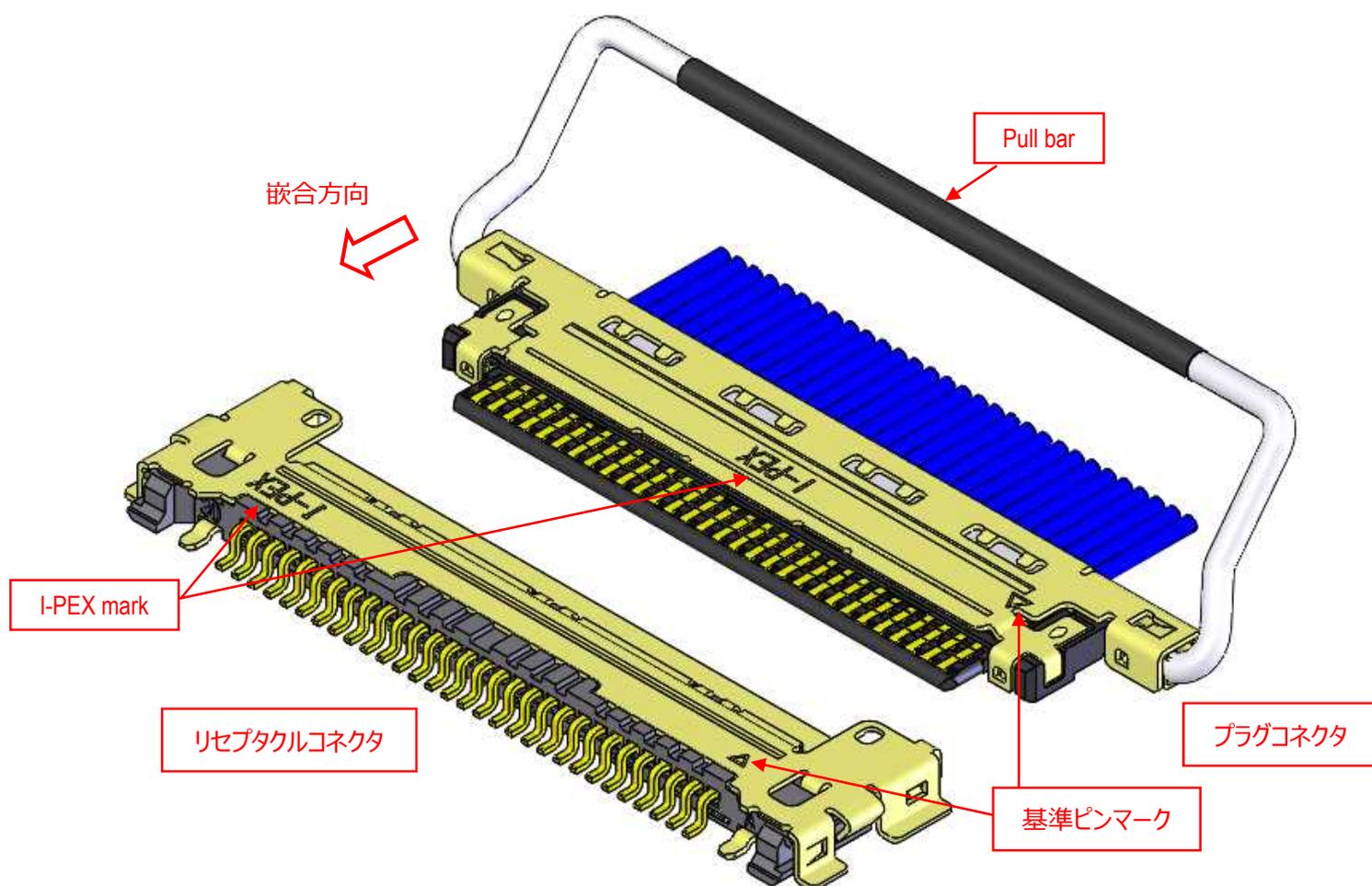
名称：CABLINE-CA Receptacle

型番：20525-#\*\*E-0##

“\*\*”には各芯数番号が入ります。

“#”はバリエーションになります。詳細は図面を参照願います。

## 【コネクタ各部名称】



## 【コネクタ挿入手順】

- ① 図 1 の様に、Pull bar をプラグコネクタの I-PEX マーク側に回転させる。

※Pull bar 付のみ

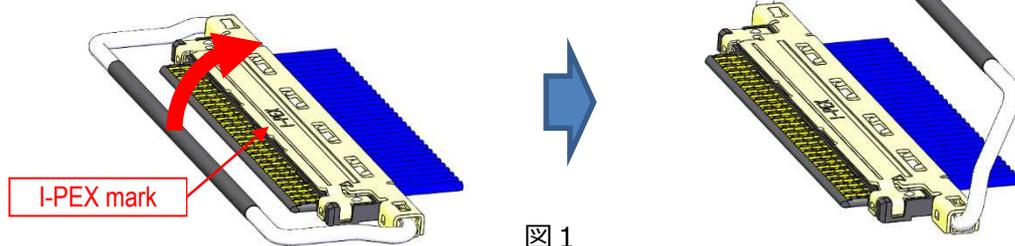


図 1

- ② 図 2 の様に、リセプタクルコネクタとプラグコネクタの基準ピンマークが向き合うようプラグコネクタの向きをセットする。

※基準ピンマーク無しの場合プラグコネクタの I-PEX マークが上面にくるようにセットする。

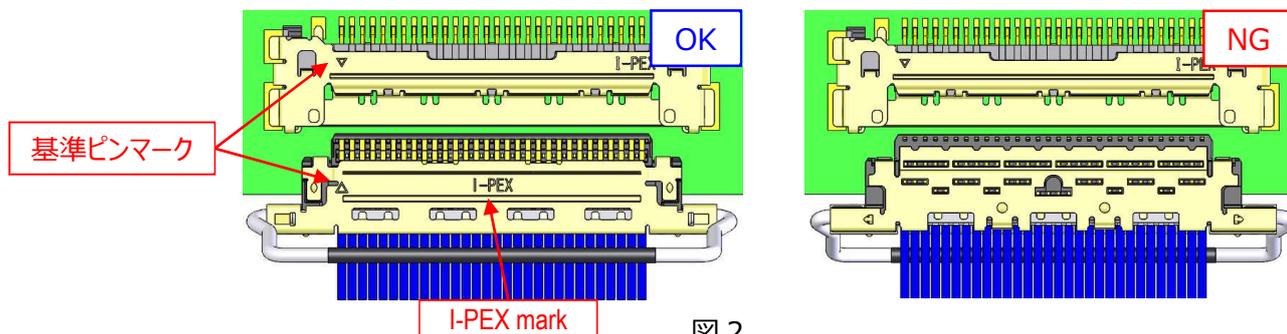


図 2

- ③ プラグコネクタをリセプタクルコネクタに仮挿入する。

製品高さ方向の挿入角度は図 3 の様に 8°以内とし、図 4 の様にプラグコネクタがリセプタクルコネクタに対し平行になるよう、仮挿入を行う。

※仮挿入の際はプラグコネクタの両サイドがリセプタクルコネクタにラップするまでは挿入方向に過度な荷重は加えないで下さい。

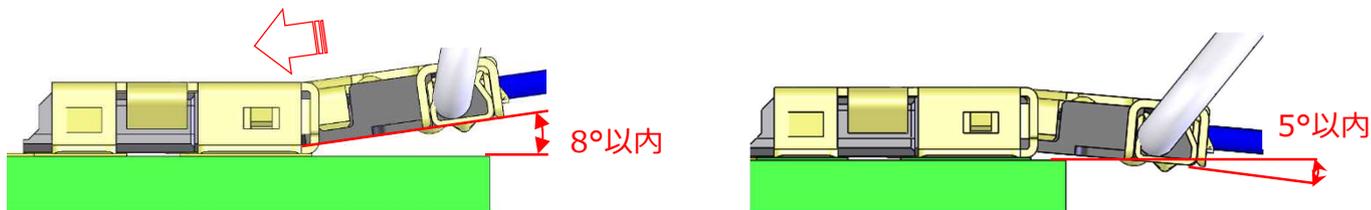
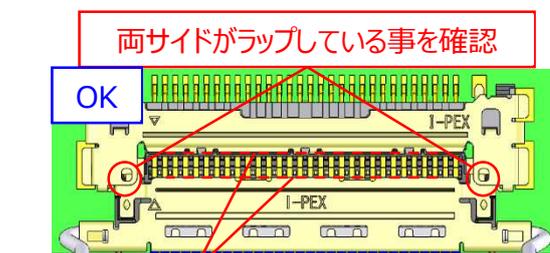
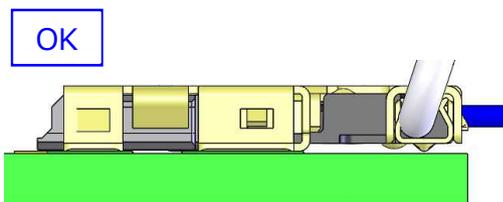


図 3

仮挿入状態



平行になっていることを確認

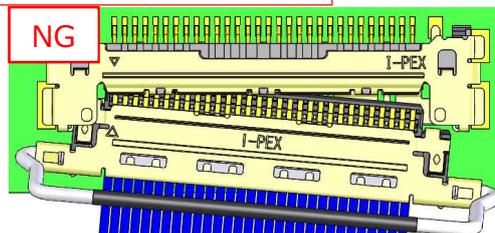


図 4

<注 1>

仮挿入が NG の場合は、手順③をやり直して下さい。

④ プラグコネクタをリセプタクルコネクタに本挿入する。

図 5 の様に、プラグコネクタの両端を同時に水平に押し、プラグコネクタとリセプタクルコネクタの隙間が無いか確認する。

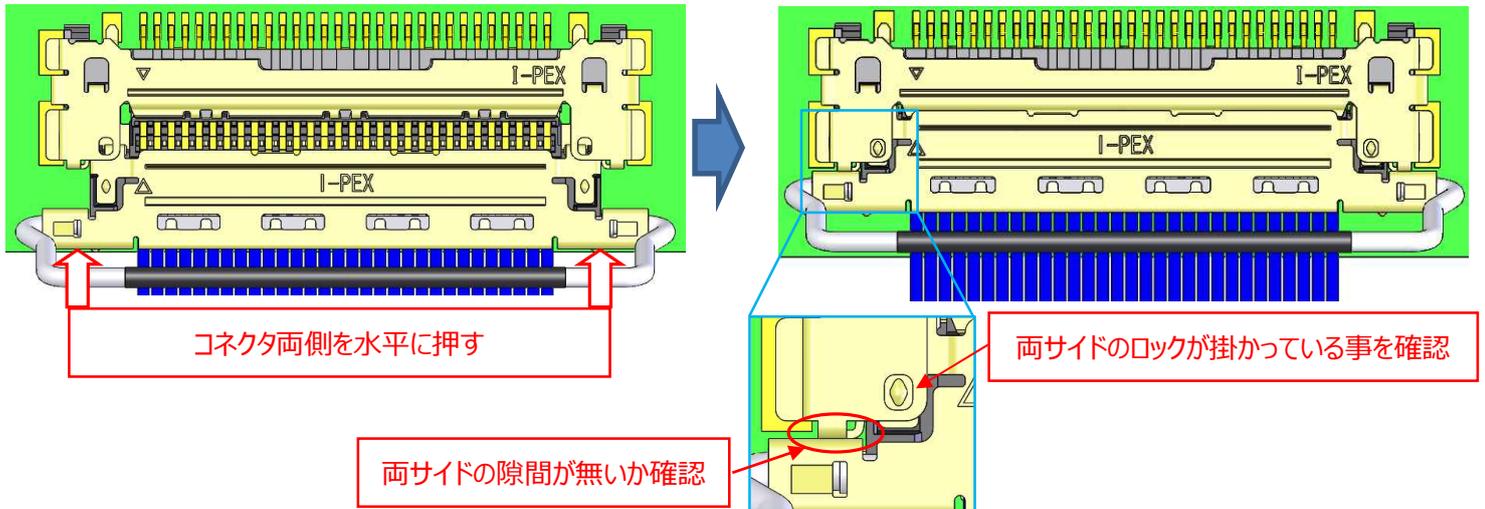


図 5

<注 2>

片側ずつ押すと、図 6 の様に嵌合不完全になる恐れがあります。

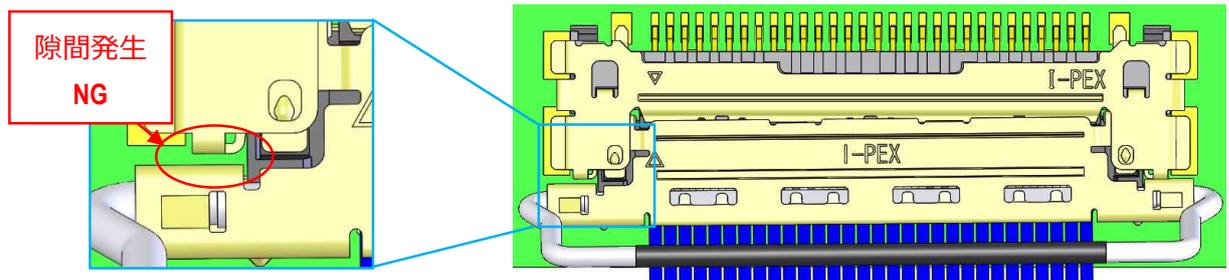


図 6

<注 3>

図 7 の様な状態から挿入しないで下さい。コネクタが破損し、不導通となる恐れがあります。

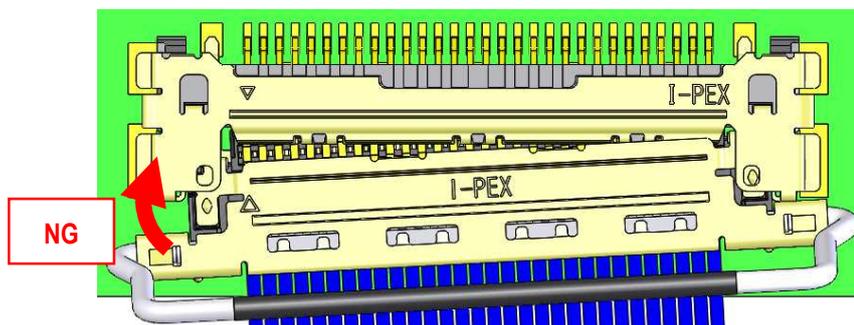


図 7

<注 4>

図 8 のように、仮挿入していない状態からリセプタクルに差し込まないでください。コネクタが破損する可能性があります。

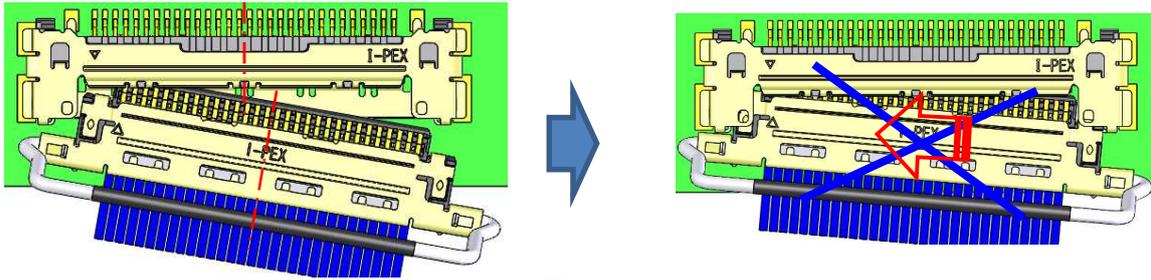


図 8

<注 5>

Pull bar を押しながらの挿入は行わないでください。  
Pull bar の変形及びコネクタ破損の原因となります。  
※Pull bar 付のみ

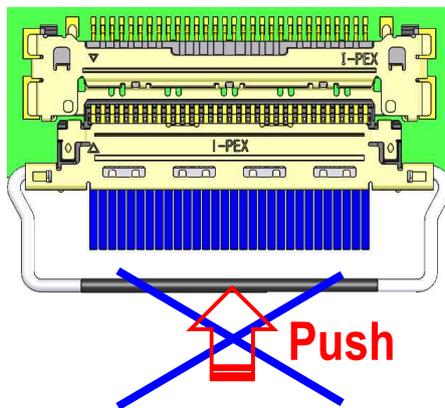


図 9

<注 6>

プラグコネクタに基板方向の力を掛けながらの挿入は行わないでください。  
基板に傷が入り、パターンの断線及びショートの原因となります。

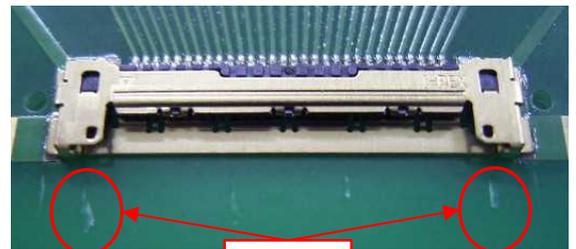
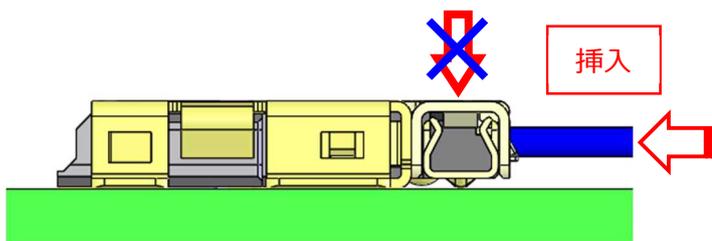


図 10

⑤ Pullbar を回転させ、下図○部を基板側へ押し込み、リセプタクルコネクタのシェルとロックさせる。

※Pull bar 付のみ

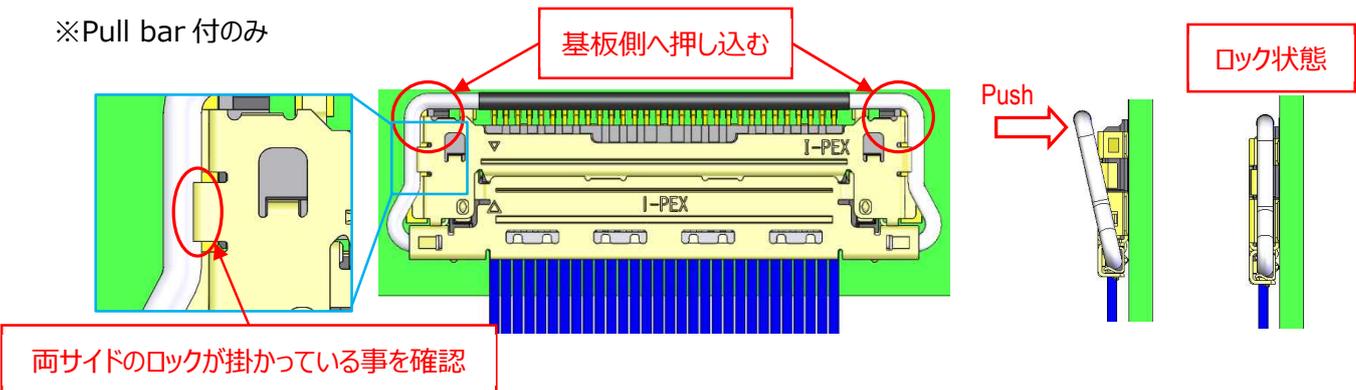


図 11

## 【コネクタ抜き手順】

- ① Pull bar の下図○部のどちらか一方を反基板側へ引き上げてリセプタクルコネクタとのロックを解除し、Pull bar を回転させる。  
※Pull bar 付のみ

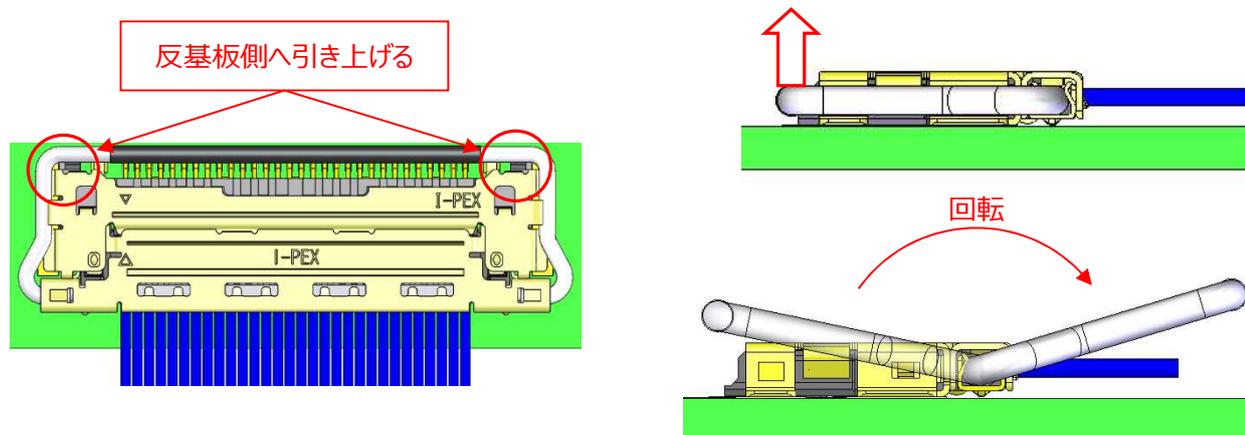


図 12

### <注 7>

Pull bar の絶縁コート部を引き上げてのリセプタクルコネクタとのロック解除は行わないでください。  
Pull bar の絶縁コートが傷付き、リセプタクル端子と Pull bar がショートする恐れがあります。  
また、Pull bar の絶縁コート部を抜去に使用すると、Pull bar が変形する  
可能性がありますので、抜去に使用しないでください。

※Pull bar 付のみ

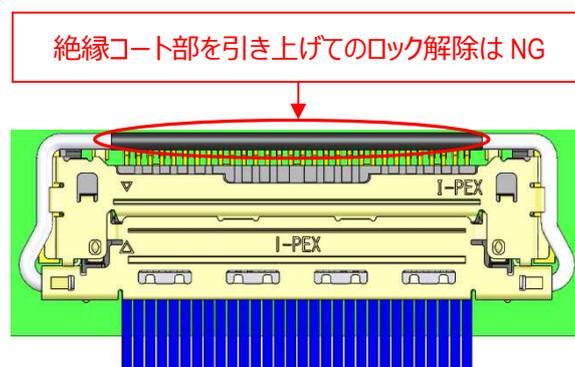


図 13

- ② 抜去の際は、図 14 様にプラグコネクタの両側を水平に引っ張ってください。

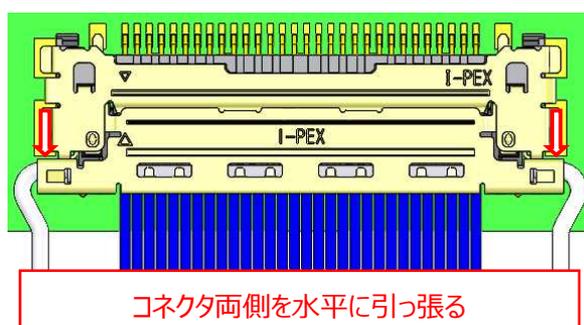


図 14

<注 8>

プラグコネクタをリセプタクルコネクタに対して斜めに抜去しないで下さい。

抜去中もプラグコネクタが斜めにならないように、両端を水平に引き抜いて下さい。コネクタ破損に繋がる恐れがあります。

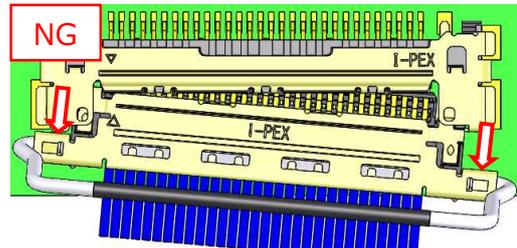
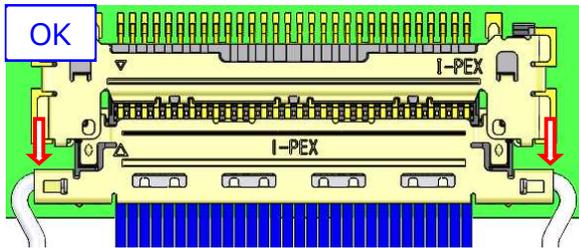


図 15

<注 9>

ケーブルを引っ張っての抜去は行わないでください。

ケーブル断線の原因となります。

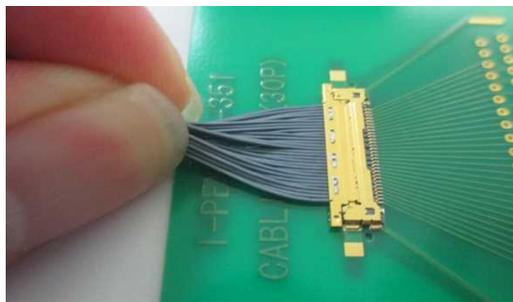


図 16

<注 10>

Pull bar を引っ張っての抜去は行わないでください。

Pull bar の変形及びコネクタ破損の原因となります。※Pull bar 付のみ

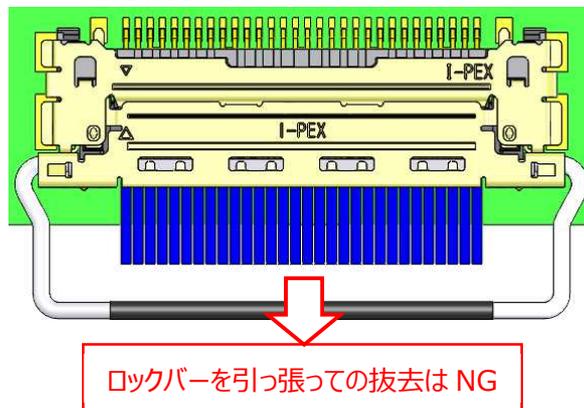


図 17

<注 11>

プラグコネクタに基板方向の力を掛けながらの抜去は行わないでください。

基板に傷が入り、パターンの断線及びショートの原因となります。

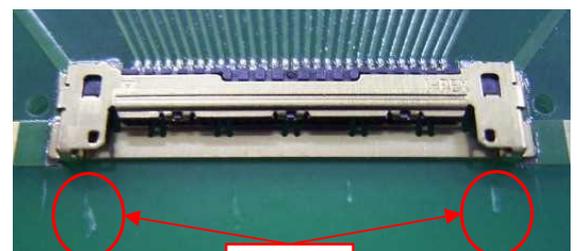
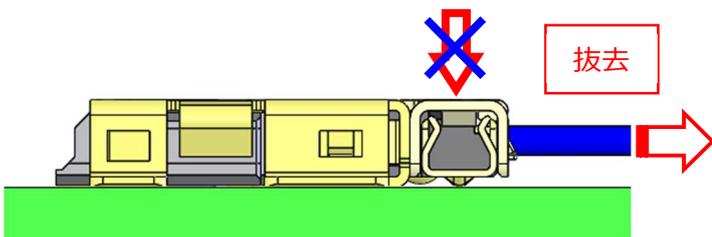


図 18

## 【コネクタ取り扱いにおける注意事項】

- ① コネクタ嵌合状態にて、プラグコネクタのケーブル及び Pull bar を垂直方向に引っ張らないでください。  
リセプタクルコネクタの変形の原因となります。

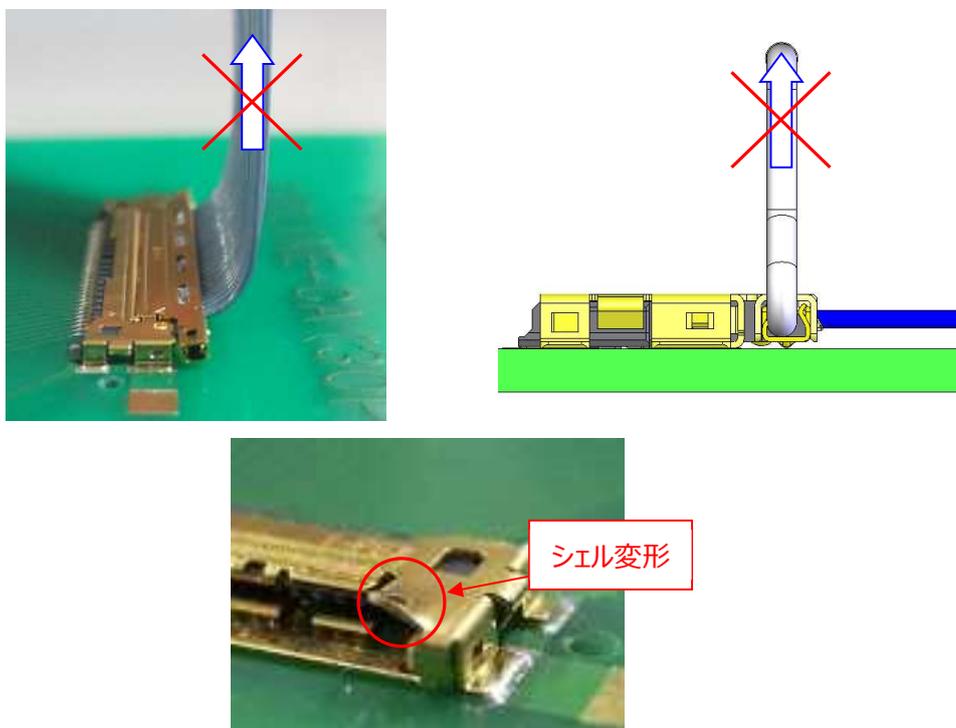


図 19

- ② ケーブル引き回しの際は、コネクタ及びケーブルに過大な力が掛からない様、ご注意願います。  
コネクタ破損及びケーブル断線の原因となります。

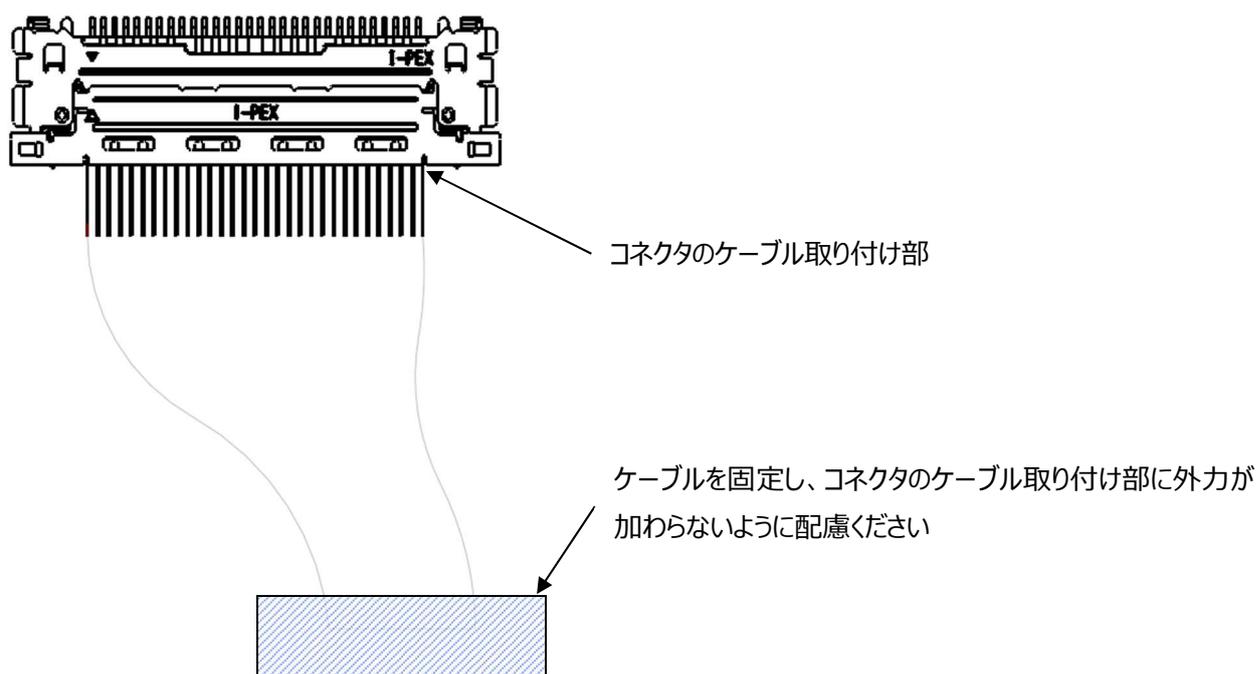


図 20

- ③ 常にコネクタに力が掛かるようなケーブル引き回しは、ご遠慮願います。  
嵌合不良及びコネクタ破損の原因となります。

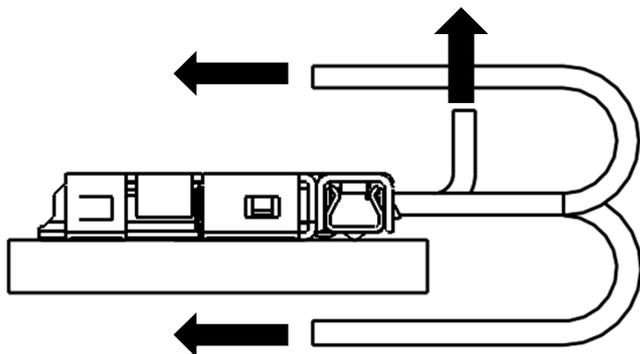


図 21

### 【電気検査に Plug を使用する際の注意】

Plug Housing が損傷している状態で Receptacle に挿入すると、  
コネクタの破損やピッチズレによる短絡等の恐れがありますので、ご注意願います。

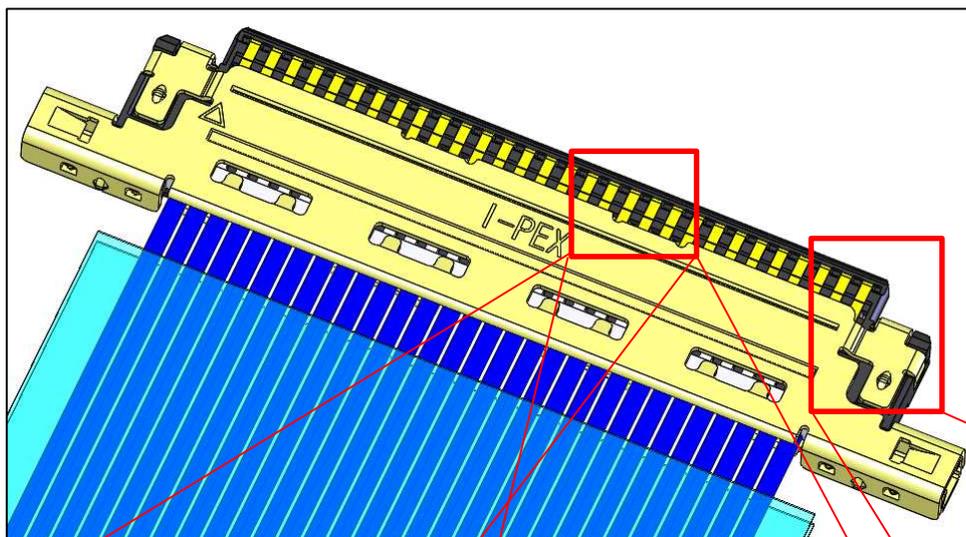


図 22